

地域と協働した学校づくり

～特色ある学校づくり・地域と進める体験学習～

越前市神山小学校

1 目的

学校は、社会の公の機関であり、そのために、地域で関わる人材・関係機関は大変多い。そのため、子どもたちの健やかな成長・発達にとって、地域で関わる人材・関係機関との連携は大変重要であり、学校の果たすべき役割は大変重要である。この三者の相互信頼と協働に基づいた関係の見直しが「子どもたちの教育を地域全体で担う」という機運を醸成し、家庭や地域の教育力とあいまってこそ、開かれた学校づくりを推進していくことができるのである。

現在、本校が取り組んでいる地域と進める体験事業は、地域との連携活動が、どのような経緯で行われ、どのような成果を上げているか。あるいは、この取組が、各教職員の時間的な負担軽減策とどのように関わっているかを検討することによって、今後の開かれた学校づくり・特色ある学校づくりの一つの指針となるのではないかとと思われる。

2 具体的な実践事例

(1) 地域について理解を深める教育活動「地域しらべ」

① 公園探検・町探検学習

公園探検では、普段見慣れているはずの地域の公園を調査し、自然や公園の設置場所などの再発見を行った。また、自治振興会との協働で旧街道を歩き、旧街道の由来や他の町村との交流について学習を行った。更に、地域の名跡・旧跡について地域のボランティアに協力を得て、地区の語り部を紹介してもらい、語り部の口伝やフィールド調査を行った結果をまとめた壁新聞で、地域についての理解を深めた。



② 稲作体験学習

地域コーディネータの指導で稲作に取り組んだ。この時、地域コーディネータと活動の内容や時間を調整する会議を行い、収穫した米についての活用方法などについても打ち合わせを行った。この体験学習では、種籾の播種から刈り取りまでの栽培過程を学習し、レポートにまとめた。また、収穫した米を使った餅つきでは、地域の地産地消の会の協力を得て、昔ながらの

杵と臼を使った餅つきを体験し、できた餅の調理法を学んだ。更に、地区の敬老会では、地区のお年寄りに、収穫した米で作った紅白餅を配布し、お年寄りとの交流を深めた。



③「瓦」体験学習

元来、神山小学校校区は良質な粘土に恵まれた「瓦」の産地である。特に「鬼瓦」に関しては、江戸時代にさかのぼるほど伝統ある伝統産業である。6年生が総合的な学習の時間に、神山地区の課題を話し合ったときに、この伝統産業の未来が話題になった。そこで、この伝統産業について調べ、工場見学等を行って、「瓦」産業の良さや大変さについてまとめ、発表して理解を深める学習を行った。その学習の過程で、「瓦」の可能性を子どもたちが地域コーディネーターと考え、検討し、いくつかの案の中から「瓦」を花器として製作した。この製作の中で、本年度は、素焼きの「瓦花器」と釉薬を塗布した「瓦花器」の二つを製作し、その違いについて学習した。また、地域のボランティアを講師に迎え、簡単な苔玉作りの体験学習に取り組み、神山地区地産地消の会の協力を得て、できあがった花器を販売した。



3 おわりに

昨年度より地域コーディネーターと共に、地域の伝統産業や教育資産を生かす取組を組み入れたことで、地域に根ざした学びを実現することが出来た。また、治振興会や各種団体との連携が図られたことにより、地域について深く学ぶことができる基盤が整備された。この取組により、地域が抱える課題の解決に向けて、子どもたちが真剣に地区について考える良い機会となった。今後、今年以上に教科と関連についても深め、地区を教材とした学習を進めていきたい。